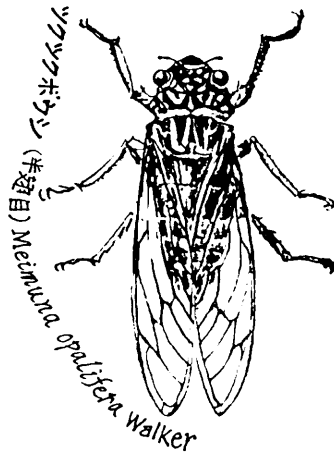


協議会ニュース 77号

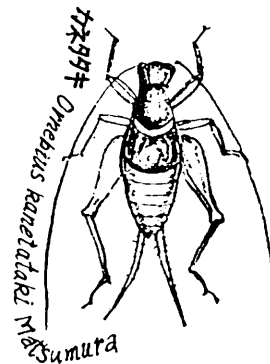
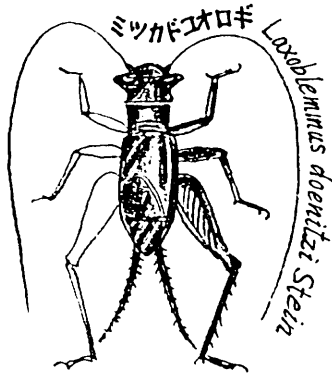
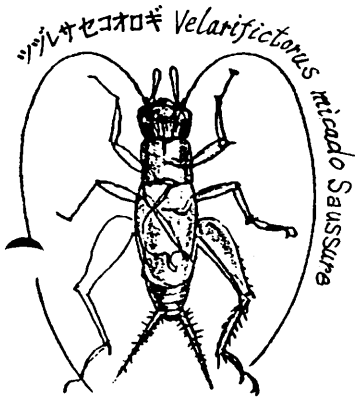
愛知県自然観察指導員連絡協議会 2000. 9



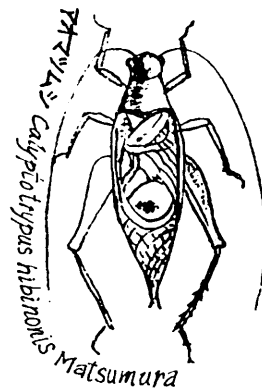
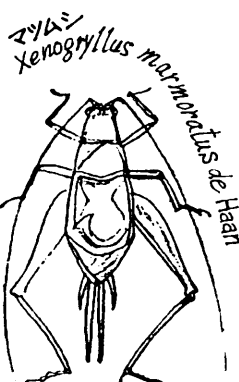
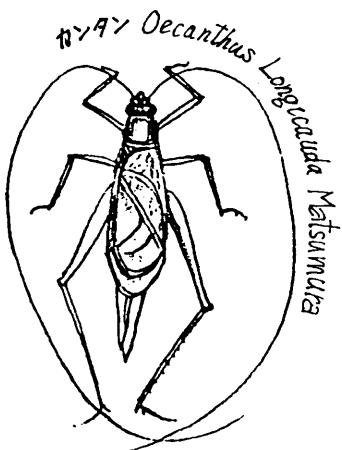
【鳴く虫】



観察会で困ることのひとつ。…虫の鳴き声。子どもたちに図鑑に書いてある通りしゃべってもピンとこないですよねえ。「コロコロコロリ」なんて鳴いてません。音感の衰えた今の子どもにはもつとりアルな音でないヒゲメです。



9月に入つたつ自然は正直。夜は一斉に虫の声。いよいよ秋。観察会も忙しくなります。



※10月は協議会の20周年。みなさんぜひ参加へお出かけください。

定例観察会の記録方法について

事務局

昨年(2019)の4月29日に「定例観察会の記録方法について」をテーマに研究会を中小企業センターで行いました。今までにこうした内容を考えたことはあまりなく、自然観察という広い分野を対象とする活動ということもあって、十分な検討はできませんでした。

その後もいろいろ考えてみましたが、方向を示すことも難しく、案と言えるほどのものも思い浮かびませんでした。しかし、一応その時の資料と会議の意見等を基に中間報告の意味で簡単にまとめてみました。皆様の意見などで機会をみつけて再度検討したいとも思っています。

† † † †

1 はじめに

観察会の記録については、協議会ができた当初は観察会の感想や参加者の反応などをまとめた形が主であったが、定例観察会が定着するに従って、花や昆虫など、その時に観察したことをまとめたものが主流になってきている。さらに、定例観察会の場合は、参加者に観察会の実施状況やその場所の特徴などを知らせる意味でまとめが作られていることも多く、まとめ方や内容も主催者がいろいろ工夫しているようである。

しかしながら、定例観察会として同一場所



で何回も行うならば、記録を重ねることでその地域の自然の状況が明らかになるように配慮したり、自然の変化を把握できるように、まとめ方を工夫するこ

とが大切と思われる。

その場合、自然観察では、対象とする分野が広く、何をどのようにまとめるか判断に苦しむことが多い。また、自然の変化を表すにしても、何がどの様に変化していくかは、予見できないという難しさもある。しかも、観察会の本来の目的は参加者とともに観察することであり、記録することは目的ではないため。記録にあまり手をかけたくないということなども問題である。

こうした条件の中で、少しでも効果的なまとめ方をするにはどうしたらよいか考えてみたい。

2 記録の目的と方法

大切なことは、まとめる際に何のために記録するかをはっきり考えておくことで、それによりまとめ方も異なってくる。(実施していく間に記録の目的が、順次変わることもありうるが、それは仕方ないと思われる。)

一般的に、現在行われている観察会の記録の目的やねらいとしては、次のようなものが上げられるだろう。これらは、便宜的に区分したもので、実際はこのうちいくつかが組み合わせあって、まとめが作られているのではないと思われる。

(1) 観察結果をとりまとめるもの

- ① 実施記録(期日・コース・参加者数等)
- ② その日に観察した内容の整理

(2) 参加者への普及を目的とするもの

- ① 参加者に観察会の状況を知らせるもの
- ② 参加者に観察した結果を知らせるもの
- ③ 参加者に地域の自然を知らせるもの

(3) 自然の内容に関するもの

- ① 見られた生物の状況（出現状況・季節との関係等）
- ② 生物の生態（生態の特徴・発見等）

これに対して、観察会の記録を重ねることにより読み取ることが出来たらよいと思われることは、次の点であろう。

- (1) 地域の自然の状況（地域の自然の内容はどうか）
- (2) 生物相などの経年変化（年がたち地域の状況が変化することに伴い、生物の状況等がどう変化いくか。）
- (3) 気候との関係（気候と生物の生息・活動状況との関係はどうか）

以上の3点を意識しながら、観察会結果のまとめ方をどのように工夫したらよいか、注意事項の形で次に整理してみよう。

3 まとめる際の注意事項

(1) 観察会実施結果のまとめ

●基本的事項……開催期日やコース、指導者名や参加者数などとともに、その日の観察内容の特徴や、出来事など一般的なことをまとめる。

●普及効果……観察会の記録は、次の回に参加者に配布したりすることも多い。その場合は、観察した内容や参加者の反応、その場所の自然の状況などを中心にまとめて、観察会の楽しさや自然を観察する参考とする。まとめ方は、主催者のねらいや個性により異なるが、簡単なスケッチなどを加えると、見て楽しいものとなる。

●指導結果……観察指導の方法などで新しい試みをしたときは、その結果や評価をまとめておくことにより、指導の仕方を検討する際の参考となるが、記録を一般参加者に見せることを主としている場合は、それ

とは別にまとめることも考えられる。

(2) その場所の自然の状況の把握

① 生物リスト・生息状況

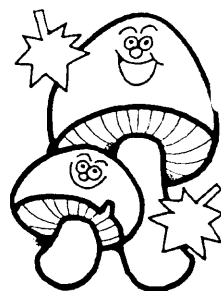
●ねらい……各回の

リストは多くなくても記録を重ねることで、その地域の生物の生息状況がある程度わかるようになると思われる。観察会で注意を引いたものだけでも、その記録を続けることは大切である。特に、その場所で普段見られないような生物を観察したときなどは、その状況を詳しく書くような配慮も必要である。

しかし、一歩進んで、地域の特徴を表す生物をリスト化するには、観察会のテーマの設定などで工夫することもある。なお、種名に自信がない場合は、？とかSPなどの印を付けて正確を期すことも大切である。

●植物……花や実のある植物という形がよく用いられるが、それだけではリストからみれる植物もあるため、時にはイネ科植物とかシダ植物等を観察会のテーマとして、それを詳しくリストにしたりすることを併用してはどうだろうか。主催者の苦手なものは、時にはそれに詳しい人に指導を頼んで行えば一石二鳥と思われる。

●昆虫・野鳥等……目についたものを記録していくことでも意味はあるが、種類数が多く、目に付きにくいものも少なくない昆虫などは、花に来る虫、クモの観察、水生生物、土壌生物などをテーマとして観察することで、ある程度カバーできると思われる。また、チョウとかハチなどその日に重点的にチェックする種類を定めて、記録する方法も可能であるが、観察会と切り離される欠点があり、指導員にも余裕が必要で



ある。

●貴重なもの等……貴重な生物や地域に特徴的な生物は、生息状況をやや詳しく記録しておく必要がある。なお、貴重なものは、参加者に配布する資料からははずして別にまとめるような配慮も必要であろう。参加者に貴重さを十分説明して、みんなで守っていくという姿勢が望ましいと思われるが、種によってはそうもいかない場合がある。

② 植生等

●植生等……地域の状況を把握するためには、主な場所の植生や地質の状況などを調査しておくことが必要である。調査と目なれば観察会とは別の日に実施することになるが、これも参加者に知らせて、参加者とともに実施する方が自然の理解につながると思われる。調査箇所を少なくすればそんなに時間はかからないので、観察会の中に加えて実施することも考えられる。

●人との係わり等……地元の人などにその場所の以前の状況などを聞いたときは、記録しておきたい。

(3) 自然の変化を把握するための配慮

●ねらい……将来何が変化するかわからない。といってすべてのもののリストもできない。しかし、観察している人には、その場所の変化はわかるはずなので、気が付いた時点で状況をメモして、その後は注意していく方法しかないかもしれない。

●リスト……毎回多くのリストを並べるのは、労多くしてあまり意味がないと思われるので、主催者の興味のある分野が中心になってもやむを得ないと思われる。また、指導員に余裕があれば、観察会のテーマとして「クモ類を重点的に見よう」などと決めて、そのリストを作るのも考えられる。ただ、あまり専門的になると参加者に嫌われるかもしれない。なお、通常の場合でも、

普段は見られないものを観察した時は、なるべく多い少ないとか生息場所なども記入したい。(例：ハンミョウ(数匹・林道)、オミナエシ(2株・〇〇池の西側))

●気が付いたこと……観察していて、普段とは違うことに気が付いたときは努めて記録しておく。はっきりしなくても、「今年は〇〇池北側のハルリンドウが少ないようだ(20株位確認)」とか「カシ類のドングリが全般に少ないようだ」などと記録しておけば、その後の参考になる。

3 その他

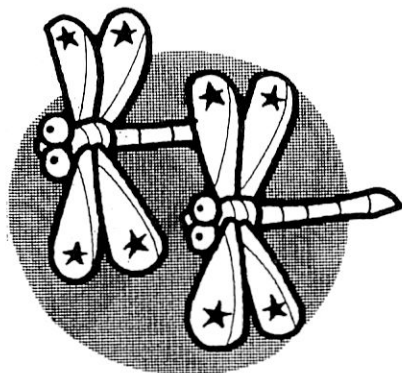
(1) 記録担当

観察会の指導をしながら記録していくのは難しいので、複数の指導者がいる場合は記録担当者を決めるのがよいように思える。記録だけなら初心者でも可能であり、記録しながらいろいろ覚えられる利点もある。

(2) 情報の提供

観察会の記録は、その土地の管理者や行政機関にも配布して(数ヶ月ごとにまとめてでも可)、その場所の自然の状況を知ってもらうようにすることも大切である、配布のために訪問するなかで、いろいろな情報が得られたり、時には開発に際しての相談があることも考えられる。

※ 次のページ以降に、定例観察会の記録を3件ほど例示してみろ



観察会での観察対象にもブームがあるような気がします。今森林公園では蛾や蜘蛛などチョッとマイナーな生き物に凝っています。仲間のひとりが夢中になっていると、皆がその情熱に引きずられて行くのです。とても良い事ではないでしょうか。

自然観察会は野鳥の会などと違い対象が広範囲で、指導員の中でもオールマイティーにこなせる人は限られてしまいます。皆が得意な分野“マイ ブーム”とやらを引っ提げて“感動の押し売り”をし合うと、苦手だった物が好きになるきっかけになります。観察会がいつまでも活気を持ち刺激的であるためにも皆で好きな生き物、植物について自慢しあいましょう！！

【今回のトピックス】

- ① 石柱の隙間でマイマイガの幼虫、サナギ、成虫 多数(2.30)、カニグモ s p を見つけた
こんな暗がりに潜んでいること今まで気付かなかった
- ② 水生園ではハングেশョウが見頃、クロスジギンヤマのパトロール、オオシオカラトンボの交接、打水産卵を観察
- ③ 大道平池で水死していたシロシタホタルをOさんが発見、ホタルガもきれいだけれど又いちだんと美しい！胴体の赤と紫の色分けが絶妙！
- ④ 快晴で暑かったせいかモウセンゴケ、コモウセンゴケの群生が満開
- ⑤ ミシシッピーアカミミガメの卵の殻が道端数カ所で見られたこんなに増えると日本産のカメはどうなるのだろう。
- ⑥ ミドリシジミに出会う。森林公園ではミズイロオナガシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミに次いで4種目。彼らの活動時刻が夕方なのでこれまで出会えなかったのです。
アオキの葉の上ではねを閉じて休んでいました。裏ばねのオレンジ色や白い線もよかった。
- ⑦ 岩本池にアオコが大発生。昨年くらいから目立つようになってきました。ウの糞の影響だと思います。元のように透明な岩本池が見たいものです。

【記録】

(昆虫) クロスジギンヤマ コシアキトンボ オオシオカラトンボ モノサシトンボ ハグロトンボ
ウチワヤンマ クロアゲハ ミドリシジミ♀ キチョウ イチモンジセセリ シロシタホタル キンバエ
クマバチ ドロバチ SP ヤセバエ SP エンマムシ SP セマダラコガネ ウバタマムシ ノコギリカミ
キリ ナナフシ コマユバチの幼虫？ ツマグロヒョウモン♂ ベニシジミ カマキリ(幼虫) キンヒバ
リ(声)

(クモ) マネキグモ(卵のうを抱える) ウズグモ ゴミグモ オオシロカネグモ キララシロカネグモ
ナガコガネグモ チュウガタコガネグモ ギンメッキゴミグモ ササグモ サツマノミダマシ ワカバグ
モ クサグモ ヤミイロオニグモ？(住まい) カニグモ SP(卵嚢を守る) アズマキシダグモ？

(鳥, 他) シジュウカラ エナガ メジロ コゲラ コジュケイ キビタキ(声) トカゲ カナヘビ

(花) ハエドクソウ ネジバナ モウセンゴケ コモウセンゴケ オオニワゼキショウ ハルジオン ナ
ツフジ ヤブムラサキ ノカンゾウ オカトラノオ コツツジ ノアザミ ミゾカクシ コケオトギリ
アオツツラフジ アカメガシワ タイサンボク ハングেশョウ カキラン サカキ ニガナ フトイ イ
ホソイ コウガイゼキショウ トキンソウ ノジトラノオ ネジバナ ドクダミ (H)

ひがしやま通信 145回

〔第145回東山自然観察会報告〕 2000年3月19日9時半～12時半 晴後曇

参加者 一般 21名(内、子供16人) 指導員 青木、石川、小塚、滝田、廣田、森

今年は2月の末頃が寒かったせい、3月になっても、すぐには暖くなりませんでした。従って、平和公園の梅などは今でも楽しめ、昨年に比べて生物層が遅れている模様です。但し、生き物たちは春の到来を少しづつ感じている模様で、先月の観察会で観察した東山の林縁の樹木の冬芽などはガマズミを筆頭に膨らんできています。

また、3月は学校の卒業式があったりで、人間の世界でも新しい門出があります。卒業式を終えた生徒が恩師や両親と共に校門の前で記念写真を撮っている姿をよく見かけますが、いつも心温まる想いがします。

今月の観察会のテーマは「林縁の春の野草」です。春の七草を中心に、林縁の野草を観察したり、水辺などで春を感じて動き始めた生き物たちを観察するのが目的となります。そこで、藤巻町の水田地帯を訪れることにしました。この自然は、区画整理の関係で今年が見納めとなります。また、今月の観察会には、新しく自然観察指導員なられた小塚さんが地元でお世話をなさっているボーイスカウトの子供達に参加してくれました。

当初は天気が心配されましたが、何とかお昼頃まで持ちこたえてくれ、早春の里やまの自然を満喫することができました。

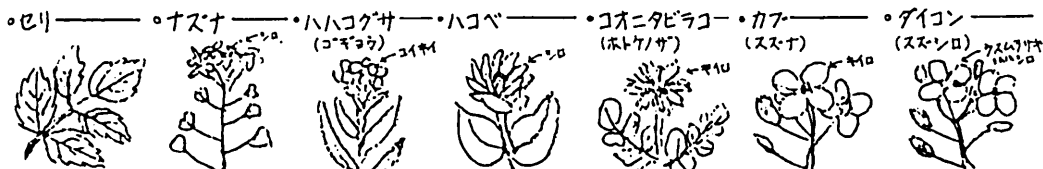
◆コース：集合地点から植物園沿いに東へ進み、第三駐車場の前で南下し、曙橋下を抜けて、植田方面へ向かう。植田寮の前で左折して荒池公園へ向かう。荒池公園の南側より藤巻町の雑木林に入り、竹林や宅地の間を抜けて、東の水田地帯に出る。さらに、新池の畔から、その東の奥まった所にある水田地帯に入る。再び、新池に戻り、周回路を通して藤巻町の住宅地を抜け、曙橋を経由して、集合地点に戻り、解散。

◆観察した主な植物：ヒサカキ、梅、モクレン、サンシュユ、オランダミミナグサ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、トウカイタンポポ、シロバナタンポポ、セリ、ナズナ、ハハコグサ、ハコベ、コオニタビラコ、タネツケバナ、スマレ、ゲンゲ、キツネノボタン、タケノコ、ダイコン

◆観察した主な動物：シジュウカラ、ユネガ、メジロ、コガラ、ヒヨドリ、キジバト、ツグミ、コサギ、カイツブリ、カワウ、カルガモ、マガモ、ホシハジロ、コガモ、モンキチョウ、その他クスサンのまゆ(透かし俵)、オオカマキリの卵塊、ドジョウ

◆春の野草：今月の観察コースの中で、色々な野草を観察することができました。花をつけた多くのタンポポはまだ寒いのか茎が短くロゼットの中央にへばりついていましたが、日当たりの良い場所に立っているものは茎を伸ばしていました。荒池公園の近くでは何本かのシロバナタンポポも見つけました。オオイヌノフグリとヒメオドリコソウが混ざり合って群落を形成していました。春の七草もスズナ以外は全て見つけました。特に、昔のホトケノザと言われているコオニタビラコについては、大変貴重で、どこにでも生えているではありません。同じキク科のタンポポと違って種子に冠毛がないために飛んでいって勢力を伸ばすことができないからです。従って、人が土を耕すことの結果で勢力範囲を広げて世代を繰り返してきました。

春の七草をさがそう。



【行事名】 幽幻のきらめき「ヒメボタル」
【日 時】 1999年5月15日（土） 21：30～22：30
【場 所】 時志観音
【天 気】 晴れ
【参加者】 池田、桑原、村瀬（3） 降幡
【内 容】

時間が早いせいかまだ光っていない。待つこと30分。山のなかからチラホラ飛び出した。昨年いなかった反対側の竹藪の入り口でも光り出した。

お隣りの高德寺の竹藪で固まりになって光っている。移動してみる。一面にひかり。別世界に入ってしまうような。このボタルの存在はまだまだ知られていない。光の時間帯が遅いのと発生の期間が短いかららしい。富具崎ではこの年の光は見付けられなかった。台風の影響が出ているのだろうか。あちこちに生息していると思われるので見付けてほしい。

【行事名】 山王川のいきもの調べ
【日 時】 1999年7月4日（日） 10：00～12：00
【場 所】 奥田駅前ひえぞ橋
【天 気】 晴れ
【参加者】 相羽、池田、金内、鈴木、原、降幡、村瀬（3）安広、（服部） 10名
【内 容】

前日の雨で思いの外水かさが多く目的のひえぞ橋付近には入れず、少し上流へ移動。

この川筋は金内さんが引き続き調査されているところです。魚とりをしている途中で地元の服部さんという方が覗いて下さった。

鳥たちの格好のえさばとなっているようでアメリカザリガニのつめがたくさんちらばっている。

イシガメ、アメリカザリガニ、モクズガニ、モエビ、テナガエビ、アカガエル、ウシガエル、オタマジャクシ、ヤゴ

ドジョウ、オオクチバス、ウキゴリ、フナ、ウナギ、タイリクバラタナゴ、タモロコ、メダカ、

サカマキガイ、イシマキガイ、カワニナ、

タイコウチ、コオイムシ、マツモムシ、アメンボ、コガムシ、

他に カメムシ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、ツマグロヒョウモン、アゲハ、キアゲハ、モンシロチョウ、ナガコガネグモ、コガネグモ、シマヘビ、キリギリスの声、ニイニイゼミの声、などなど。

環境庁調査

ツバメ調査結果

事務局

環境庁が1997年に行った「身近な生き物調査（ツバメ調査）」の報告書が来ていて、それをお知らせするのが大変遅れてしまいましたが、その結果をまとめてみます。この調査には、全体で31,352名の参加者があったそうです。

※ ※ ※ ※

1 都道府県別の巣の数

報告書には、都道府県別のツバメの巣の数がまとめられています。東海地方の状況を抜き出してみると表1のようです。

巣の数は、調査に参加した人の数に左右されるため、単純に比較できませんが、種類ごとの構成などは、ある程度傾向を表しているでしょう。

ツバメは、北海道から九州まで巣が確認されていますが、北海道は極くわずかで、東北

地方もあまり多くないようです。なお、東京・大阪などでは、臨海の埋立地や都心部ではつばめの巣はかなり少数のようです。

コシアカツバメは、表1では静岡県で多くでいますが、全国的にも東海・近畿でやや多い傾向となっています。東北地方では極くわずかし確認されていません。

イワツバメは、表1では、三重県以外は3県ともほぼ10個あまりが確認されています。全国的には、関東甲信越地方にやや多く分布しているようです。

ヒメアマツバメは、関東以西に点在していますが、やや分布地が多くなっている傾向があるそうです。

2 巣の場所

ツバメでは、巣の作られている場所は一戸建ての住宅や商店が多く、それぞれ3分の1

表1 ツバメ類の巣の件数

県	愛知県	岐阜県	三重県	静岡県	全 国
ツバメ	4 4 0	1 1 7	1 3 4	5 1 6	7, 4 8 2
コシアカツバメ	9	9	1 2	3 9	4 1 3
イワツバメ	1 1	1 3	4	1 1	4 3 7
ヒメアマツバメ	1	0	4	1	3 7
計	4 6 1	1 3 9	1 5 4	5 6 7	8, 3 7 3

* 全国の計には、リュウキュウツバメ4を含む。

表2 建造物の種類 - 全国・構成比 % -

場 所	1戸建て住宅	集合住宅	1戸建て商店	学 校	その他建物	橋 等	計
ツバメ	3 3	1 4	2 9	3	2 0	1	1 0 0
コシアカツバメ	1 0	2 2	9	2 1	3 0	8	1 0 0
イワツバメ	1	3	4	1 0	3 5	4 7	1 0 0

を占めていました。このことは、商店を好んで利用している比率が高いことを示しています。集合住宅もある程度利用していますが、橋などを利用する例は非常に少数でした。

コシアカツバメは、大きな建物に営巣が多く、学校や集合住宅でよく見られます。これは、巣の形から、天井に広い水平面があることが好まれているとしています。

イワツバメは、橋に営巣している例が半数近くあるのが特徴で、建物では学校やビルなどが好まれています。一戸建て住宅・商店なども若干は利用例があるようです。

建造物の中の位置では、ツバメ・コシアカツバメ・イワツバメともに「軒やひさし」に営巣するものが4分の3以上あります。ツバメでは、全国平均で「室内」が1割ありますが、これは都市部では4%しかないのに対し農村部では30%とかなり多く、人との交流の強さを示しています。コシアカツバメでは、階段室の利用が目立っています。

3 ツバメの巣

ツバメの巣の形では、壁などの垂直面に作られたカップを半分にした形が52%と半数を占め、垂直でも横木などの出た部分を支え

としているものが19%となっていました。また、壁には接しているが、全体が巢台や電灯などの上に乗って皿形に近いものが20%あり、やはり何かに乗っていてしかも壁には接していないものが8%ありました。

4 繁殖の失敗

ツバメの場合は、途中で繁殖に失敗した例は、全体の15%でした。調査全体に経過を見ていないので、これは15%以上が失敗していることを示しています。カラスやヘビによるもの、巣の落下によるものがやや多いようです。ヘビによるものは、農村だけでは43%になります（都市だけでは、9%）。

コシアカツバメの場合は、スズメが原因となるものが圧倒的に多く、これはスズメがしばしばコシアカツバメの巣を利用することと関係があるようです。

イワツバメは集団で営巣することが多く、特定の巣を継続観察しにくいいため、繁殖の状況の調査例が少なく、表の数字は参考程度ですが、スズメが原因のうち最も多くなっています。スズメが原因となるのは、建物に巣を作った場合と思われます。

表3 ツバメ等の巣の位置（建造物） —全国・構成比 %—

場 所	軒 ひさし	室内	階段室	ガレージ	その他	計
ツバメ	76	10	1	12	1	100
コシアカツバメ	76	2	17	5		100
イワツバメ	82	2	2	13	1	100

表4 繁殖の失敗原因 —全国・構成比 %—

場 所	人	カラス	スズメ	ヘビ	巣の落 下	計
ツバメ	14	27	14	21	24	100
コシアカツバメ	8	8	72	12	0	100
イワツバメ	23	16	42	3	16	100

* 調査報告書には少し余部がありますので、希望者にはお送りします。

哺乳類の話 (NO. 4)

山田 一孝 (名古屋支部)

最初に訂正です。前回(75号)のムササビの食痕の図解説明が、クズの葉となっていました。が、「クス(楠)の葉」の誤植です。さて、最終回の今回は、自然観察の題材として野生哺乳類をとりあげるとき、避けて通れない問題について考えてみます。

〔野生哺乳類とヒトとの関係〕

私たちが自然観察会などで解説をするとき「もの言わぬこわれやすい自然は、いつも黙って消えていくだけです。大切に守っていきましよう」と言ったりします。しかし、野生哺乳類に限っては、そうとばかりは言えないようです。報道される数々の野生動物による食害・獣害問題は、彼等からの強烈な抗議の声のようにも感じられます。そして、それら食害・獣害では、まぎれもなく損害が発生し、困っている被害者がいることを考えれば、軽々しく「自然は保護するのが当然」と言っているばかりでは説得力に欠けます。解説する側にこういった自然とヒトとの摩擦をどう捉えるかという哲学が要求されるのです。

実はネーチャーウォッチングで農山村を歩くと、しばしば地元の人に話しかけられるのですが、どの方も農作業の手や山仕事の手を休めて、傍らで総額鏡をかまえる我々に声をかけてくれます。多くは年配の方で、決してとがめる口調ではなく穏やかなのですが、話題はしばしば畑を荒らすサルやイノシシのことになります。畑の周囲を囲む防護柵を指しながら、「一夜にして作物が全滅することが何度も続くと、農業を続ける意欲がなくなってしまう。」と口調は穏やかなままで、その心境を語ってくれます。こちらが双眼鏡やスコ

ープを持ってるのを見て、気を使ってくれるのか、「自然が好きで見に来た都会の人ですね。いや私だって自然が好きだし、けものをみんな撃ち殺して良いとは思っていない。しかし、ならばいったいどうすれば良いのか、本当に困っているのですよ。」と言われると返す言葉につまってしまいます。

もちろん野生動物とヒトとの間の摩擦も、より広い視野での環境破壊、人間の活動にその根本原因を求めることが出来るものと思います。しかし、そういった遠大な議論だけでは、今起こっている獣害の解決には無力なのも確かです。自然観察会の参加者から、そういった点をつつまされたとき、しどろもどろにならないため、自分に理の考えをまとめておくべきでしょう。

〔獣害の存在を認識することから〕

野生動物が引き起こす害として、シカ・カモシカ・ウサギおよびネズミ類などが造林木の苗木をかじる林業被害(食害)、また同じ林業被害ですが、クマが成木の樹皮(形成層)をひきはがしてかじるクマハギなどがあります。農作物を盗む動物は多くて、山に接する農地で一番問題になっているのはサルとイノシシで、他にタヌキやアナグマも畑を荒らします。キツネやテン、イタチなど肉食獣は、ニワトリや養魚場の魚などを狙いますし、ネズミ類は農業被害だけでなく、家に侵入するのはご存じのとおりです。人家や人里の獣害として最近多くなったのが、屋根裏にもぐり込み住みつかれたというものです。住んでいるだけならともかく、屋根裏に糞尿をするために大変なことになっています。これをするのは移入種のアライグマがほとんどですが、

在来種のムササビがこれをしている例も聞きました。

そして、実際の件数は多くはないのですが、その心理的影響が大きいのが、クマによる人身事故です。「猛獣」に対する恐怖が根強いのは仕方がないかことかも知れませんが、農作物や生ゴミをねらって人里に出没するクマが増えていることも問題です。ただし、近頃はこの野生動物に対する恐怖心が過剰になり、あらゆる動物を恐怖し、嫌悪する風潮も起きています。そんな風潮の犠牲者がアブラコウモリで、野生動物関係のホームページへの相談で多いのが、「屋根裏にコウモリがいるらしいが、追い出し方を教えてください。」というものだそうです。コウモリは力を食べてくれる「益獣」だからいてもかまわないでしょうと返事をしようものなら、「気味が悪い／嫌なものは嫌／病気が移る」等、相談者が一方的に怒り出すのだそうです。

〔保護ではなく共存の発想で〕

「自然は大切に」と教える自然観察会で、

彼らとのつき合い方をどう教えるべきでしょうか。私は、こんなふうにとえたらどうかと思うのですが。

人もまた動物であり、哺乳類の一種です。その生活基盤すなわち人が生存のために利用する自然環境は、実は野生の哺乳類も同じように利用するために、そこに生存競争が生じてしまいます。これが形になって現れたものが諸々の被害であったり、逆に野生動物が減少したり絶滅したりする自然破壊です。野生動物はそうように人にとっても近い存在であり、たとえていえば同じ社会に暮らす市民どーうしのようなものです。あるいはもっと近い親戚どーうしといっても良いかもしれません。それは、ときには迷惑をかけたり、かけられたりしながら縁を切るわけにはいかない点までよく似ています。そうたとえば実感していただけるのでしょうか。野生動物と共存することは、自然保護という美しい言葉にはなじまない、しんどい作業であり、苦勞や煩わしさ、ときには出費までともなう、近所つきあいなのです。 (終)

取材員報告

段戸裏谷のキャンプ施設

近藤記巳子

「段戸原生林へ……」という誘いを受けた。本年7月にオープンしたばかりのキャンプ施設にも一泊するという。ペルセウス流星群が極大となる8月12・13日。日中はもちろん夜も楽しみだ……、とでかけた。

現地に到着。「涼しい。」豊川市内の気温と比較すると、夏は5～8℃は低いとのこと。

地元の間伐材を利用して設計された建物はまさに「ぴかぴかの一年生」風だ。参加者の一人が階段とは別に設けられたスロープを車

イスでゆっくと上がる。バリアフリー設計がなされている。中に入ると木の香りが快い。1棟に8室あり、各々に数人から十人程のベットが並んでいる。シャワーもトイレも簡素だが十分な数が用意されている。炊事場も流し台、ガスコンロ共に驚くほど並んでいる。

ところが……である。

陽が沈むと、明々とした照明が幾つも点った。広場では、キャンプファイヤーを囲んでゲームに興ずるグループがいる。

明る過ぎる照明は生態系に悪影響だ。キャンプファイヤーは取り止めよう……。そういう認識が広がっている中で、なぜ今年オープンした施設が、時代の流れに逆行する方向を向いているのだろうか。

段戸の財産のひとつは豊かな環境である。段戸の夜空の星数が、名古屋市内と変わりないのには落胆した。思いがけなく大きく長く尾を引く流星を見たのが救いであった。

自然のたより

朱雀英八郎（名古屋支部）

*名東区猪高緑地のビオトープで鳥や虫と共生する田畑耕作を手がけ、これだけでも大変ですが、そば畑や古代米をテスト中です。雑草との競争ではじめは応援していますが後は手抜きです。

*最近、小学校で田植えや、バケツで稲を育てている。いいことだが後はどうするのだろう。スズメにあげたらと思うが、初穀付きなのでスズメも食べたがらない（食べない）とか。都会の鳥は贅沢になったというか、キジバト、カラスなど街に入り込んでいる。適応進化かと議論になったが、まさに人と自然との共生というか共存になろう。一方、耕作をしていると作物を盗られたり畑を荒らされたりする。手間をかけたものが盗られるのは本当に腹が立つ。鳥も虫も食べてよいとビオトープとして収穫を目的とせず作っていますが、一番の敵は人間だったりします。困ったものだ。



*海上の森に関わりかけたが状況が変わって大変です。里山公園構想の生態系について環境教育学会（長野）で発表し、海上の里地区を主としたビオトープ作り（湿地、より豊かな生態系作り）に関わっています。

一方、4月以降知事の決断で変更となった愛知万博ですが、環境団体との合意から始まった愛知万博検討会議へ傍聴参加をしています。この会議は画期的なもので、委員は環境3団体を主に学者、市民グループ、地域などから構成され、問題を明らかにし共有するようにしています。座長は女性で、会議は誰でも傍聴でき、野鳥の会支部、自然保護協会、海上の森の仲間などが参加しています。

海上南地区の活用方法をめぐって議論が進んでおり、自然、生き物が焦点となり、開発と保護がどこで折り合いが着くかです。

万博のテーマが自然の叡智、自然との共生であり、環境万博とも言われ、自然保護に結びつくことで自然の良さをアピールする機会にと思っています。オオタカやシデコブシだけでなく、生態系として里山自然を生かした楽しいイベントでありたい。

協議会20周年記念大会の開催

事務局

昭和56年に設立した協議会が今年で20周年を迎えます。一つの節目を迎えて、協議会も新たな出発を目指したいと思います。ともかく、20周年を記念して次のような内容で大会を行いますので、多くの方の参加をお願いします。指導員講習会以来逢っていない人もいるでしょう。ここで旧交を温めませんか。



1 趣 旨

20年間の指導員活動を振り返って、新しい時代に対応できる協議会に向けて、新たな出発を目指すとともに、社会的な知名度を得る契機とする。

豊かな心を持った人々が、自然と共生する社会を目指していくために、多くの人に自然の楽しさ、仕組み、大切さを伝えることをねらいとして活動を続けることを確認する。

2 大会の概要

(1) 期 日 平成12年10月29日(日) 10:00～

(2) 場 所 県産業貿易館(名古屋市中区)

(地下鉄「市役所」駅、南西へ徒歩10分)

(3) 日 程 10:00～12:00 分科会

(参加者は適宜各会場に入る。)

12:45～ 大会受付開始

13:30～15:20 大会挨拶・講演会

15:40～16:30 分科会報告

17:00～18:30 懇親会(会員のみ)

3 分科会

①「観察会始めの一步」

－本館第5会議室(4F)－

観察会活動を始めた契機やその後の経緯の発表とともに今後の活動についても

②「学校教育での自然観察」

－本館第6会議室(4F)－

学校教育の中での自然観察の取り上げ方、今後の総合学習などの取組について

③「どんな自然を守っていくか」

－本館第7会議室(4F)－

日頃の自然に対する活動の中で、どんな自然をどのように守っていくか

④「環境教育と自然」

－本館第1教室(B1F)－

環境教育の中で自然観察の果たす役割と自然観察から環境問題につなげる方法

*終了後、昼食を出します。



4 講演会等

① 時間・場所 13:30～

－西館大会議場(10F)－

② 内 容

・会長あいさつ・経過報告

・講演会

「身近な自然を新しい視点で」

高木典雄氏(名古屋大学名誉教授)

・分科会報告

③ 参加費 500円(会員は無料)

5 懇親会

・時間: 17:00～18:30

・場所: 本館地下1階 レストラン

・内容: 立食パーティ(会員のみ)

・参加費 3,000円

(二次会も考えます。)

6 関連行事等

① 観察会実施場所紹介パネル展

② 自然観察よろず相談室

③ 記念誌の発行

事務局から

[各種調査のお願い]

県・環境庁・NACS-Jなどの自然に関する調査が実施されています。協議会としてもこれらに協力したいと思いますので、多くの方の調査実施をお願いします。


↑ ↑ ↑ ↑ ↑

《「身近な自然を感じよう」調査》

〈環境情報共有モデル事業〉

☆ 主催

愛知県環境部（環境政策課）

052-961-2111（内線3020）

☆ 趣 旨

地域の環境についての理解を深めるために、県民が行う身近な自然の観察・調査（平成12年度対象生物は下記）を県がまとめて、情報を県と県民で共有化しつつシステム化しようというものです。調査にパソコンを有効に利用しようというのが特徴です。

今年はそのモデル事業として、幾つかの団体が中心となって、実験的に調査を進めます。当協議会も、この調査を引き受けましたので、なるべく多くの方の御協力により、県内各地のデータを集めたいと思います。

☆ 調査対象者

自然観察指導員で、原則として県に調査員として届け出た方が対象となります。今回の調査は、インターネットで行うため、それが取り扱える方を対象としますが、友人のパソコンから入力することも可能ですし、調査結果を事務局（佐藤）まで送付していただいても結構です。

（調査員登録ができなかった方でも、調査結果は受け付けますので、事務局（佐藤）まで

データをお送り下さい。）

☆ 調査期間及び報告期間

平成12年10月～11月

（調査年月日は9月のものでもかまいません。）

☆ 調査対象種

（昆虫）アオマツムシ・スズムシ・マツムシ・キリギリス

（鳥類）スズメ・ハジバト・ドバト

（植物）ススキ・セイタカアワダチソウ

☆ 調査方法

前記の対象種を見た場合は、その場所や確認月等を、Eメールにより、県に報告してください。（または、期日内に、事務局まで送付してください。）

● 報告項目

パスワード・ID・氏名・調査月日・天候・場所・対象種名・周囲の様子

● メールアドレス

info2518@pref.aichi.jp.

● ホームページ

URL : <http://www.pref.aichi.jp/>

kankyo/kyoyu

☆ 調査結果

調査結果は、翌日県のホームページで見ることが出来ます。後日、機関誌でまとめることも考えています。

☆ その他

● パスワード : 「nature」

● IDナンバー : SK+指導員番号

● ご不明の点は、県または事務局へ問い合わせして下さい。

《全国自然調べ「私たちの川」》

〈NACS-J〉

NACS-Jが現在、全国自然調べ「私たちの川」を実施しています。会員には調査表が送られていると思います。是非、身近な場所、出掛けた場所で調べてみて下さい。御協力をお願いします。

調査の概要は次の通りです。

☆調査項目

- ① 対象河川の名称・場所等
- ② 川の自然度（点数評価）
〔周囲の様子・川原の様子・流れの様子
・水の汚れ・野鳥・タム等〕
同一河川4地点まで記入できる
- ③ 自然を守る活動の有無と概要
- ④ 川の様子の変化
- ⑤ ダム・わき水の状況等
- ⑥ アンケート

☆調査方法

所定の用紙に調査結果を記入して、NACS-Jへ送付する。

（用紙は、事務局（佐藤）にもありますので、希望者はご連絡ください。お送りします。）

☆報告締切

平成12年9月30日まで
（なお、10月20日位まで締切を延長してもらう予定です。）

☆協議会への送付

調査結果の写しを協議会事務局までお送りくださるようお願いします。ある程度集まれば、協議会としても愛知県の実況をまとめてみたいと思います。既に、NACS-Jへ報告している方もよろしくお送りします。

《身近な林（秋冬の調査）》

〈環境庁自然保護局〉

環境庁の「身近な林（秋冬の調査）」が始まりました。これについても協議会として協力したいと思います。是非、身近な場所、出掛けた場所で調べてみて下さい。御協力をお願いします。なお、来年は春秋調査が同じ林で依頼される予定です。

調査の概要は次の通りです。

☆調査項目

- ① 林の様子調べ
〔環境・林の種類・林の様子・管理の状況・広さ等〕 写真添付
- ② どんぐり調べ
〔見つかったドングリの種類〕
- ③ 赤い実調べ
〔見つかった赤い実の種類〕 写真添付

☆調査方法

所定の用紙に調査結果を記入し、写真添付のうえ、環境庁自然保護局生物多様性センターへ送付する。

（用紙は、事務局（佐藤）にもありますので、希望者はご連絡ください。お送りします。）

☆報告締切

平成12年12月10日まで

☆協議会への送付

調査結果の写しを協議会事務局までお送りくださるようお願いします。ある程度集まれば、協議会としても愛知県の実況をまとめてみたいと思います。協議会の名前以外で調査員となっている場合もお送りください。まとまれば、NACS-Jの結果とともに機関誌に載せる予定です。

行 事 案 内

☆ふるさと自然観察会

- ◎「東山公園」（千種区） 一名古屋支部ー
期日：平成12年10月15日（日） 9：30～ 集合：東山植物園正門前
- ◎「聚楽園公園」（東海市） 一知多支部ー
期日：平成12年12月3日（日） 9：30～ 集合：公園北駐車場

☆フォローアップ研修会

- ◎「草地群落の観察」 一名古屋支部ー
期日：平成12年10月7日（土） 13：30～ 場所：天白区平針（針名神社）
- ◎「地質の観察」 一尾張支部ー
期日：平成12年11月12日（日） 場所：未定（送付文参照）

☆基礎研修会

- ◎「子どもを対象とした観察指導」
期日：平成12年10月9日（休） 13：30～ 中小企業センター
子どもを対象とした観察会の指導方法などについて考えたいと思います。経験ある会員の意見を聞く形で実施の予定です。

☆協議会20周年記念大会

- 期日：平成12年10月29日（日） 10：00～ 愛知県産業貿易館
内容は機関誌にあります。10年に一度の催しです。多くの方の参加をお待ちしています。

★問合せ先：佐藤（☎05617-3-5674）まで

※ 編集後記 ※

最近、中公新書の「河童よ、きみは誰なのだ」を読みました。河童の存在の真偽はともかく、河童のいる風景を想像するだけで楽しくなります。河童が登場する場所はいつも美しい自然の中だからでしょうか。日本の美しい自然が失われていけば、河童の生息場所も失われ、やがては私たち人間の生息も脅かされるようになるのでしょうか。愛知万博の検討会議が形だけのもので終わるのか、開発と保全に関わる新たな方向性を提案できたものになったのか、まだ予断が許せないように思えます。検討会議の今後に期待したいと思います。（近藤）



＝ 目 次 ＝

定例観察会の記録方法について	1
ツバメの調査結果	7
哺乳類の話④	9
取材員報告「段戸裏谷のキャンプ報告」	10
自然のたより	11
協議会設立20周年大会のご案内	12
事務局から	13